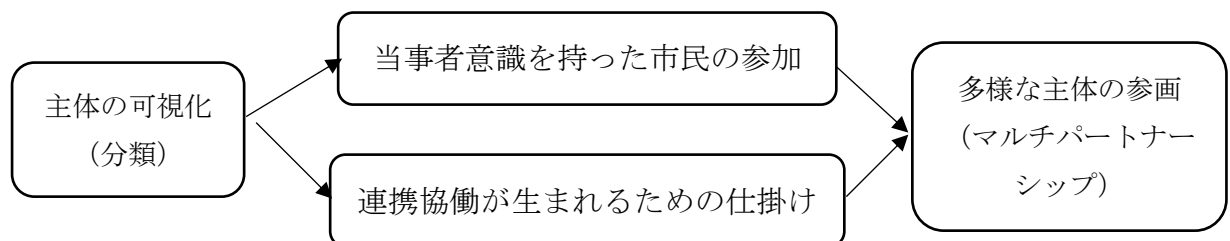


検討のポイント

1 検討の概要

- ・当事者意識を持った市民の参加、多様な主体の参画、連携協働が生まれるための仕掛けの3つの観点はそれぞれ関連付いている。
- ・検討の基礎として、各主体の可視化（洗い出し）を行い、主体の特性、関心事から、それぞれに適した「当事者意識を持った市民の参加」「連携協働が生まれるための仕掛け」のあり方について検討を進めていく。
- ・これまでの審議会での議論から、3つの観点到に共通するポイントとして、「支援」「評価」「ICT」がある。



2 検討のポイント

(1) 「多様な主体」の可視化

市民活動を担う多様な主体について、その特性、関心事等を整理、分類する。

ア 自然人、法人

イ 活動エリア

ウ 項目

(ア) 活動目的

(イ) 活動内容

(ウ) 特性

(エ) 関心事項

(オ) その他

エ 特性に応じた働きかけ

オ 参画しやすい仕組み（仕掛け）

(2) 多様な主体（市民・団体）の当事者意識を醸成する方策

それぞれの主体が当事者意識を持つようになった過程・道筋について検証し、有

効

な方策について検討する。

ア 過程・道筋の検証

イ 自分ごとと捉えてもらう仕掛け

特性に応じた働きかけ

- ウ 中間支援組織・行政の関わり方
- (3) 連携協働が生まれるための仕掛け
 - 連携協働の事例を検証することにより,有効な仕掛けについて検討する。
 - ア 事例の検証
 - イ 仕掛けの検討
 - (ア) 主体の特性に応じた働きかけ (参画しやすい仕組み)
 - (イ) 連携協働を促すインセンティブ
 - ウ 各主体の担うべき役割の分担・オーバーラップのあり方
 - エ 中間支援組織・行政の関わり方